

介護福祉士指定科目における科目間連携と汎用性の高さに着目した映像教材の作成



野田由佳里¹⁾*,松田愛美²⁾,高橋由紀³⁾,松山美紀⁴⁾,齊藤美由紀⁵⁾

1) 聖隷クリストファー大学 2) 神奈川県立保健福祉大学 3) 北海道医療大学
4) 国際医療福祉大学 5) 日本福祉教育専門学校

介護福祉士養成課程で使用する科目間連携と汎用性の高さに着目した映像教材を作成し、コロナ禍で困難になった在宅介護実習にも活用するなど、介護福祉士養成教育の質に寄与することを目的とした。

取り組み期間を事前に四段階設定（アセスメント・計画・映像作成・映像の具体的使用例を検討）とした。研究グループの打ち合わせは主にリモート会議とした。

月に1回のリモート会議、数回のメール会議、対面では、キックオフミーティング（6月29日）シナリオ作成ミーティング（10月28日）を行い、4事例とした。動画撮影（11月11日）では、60シーンの撮影を終えることができた。12月～1月には成果物の活用方法について、3回のリモート会議を実施した。

目的

方法

結果

撮影用に作成した事例の一部



撮影風景撮影した動画の一部



結果

2022年度の研修モジュールに参画したメンバー研究協力者で、介護職員役、高齢者役を演じた。研修モジュールの反省点から、時間管理や、事例設定が重要だという共通認識を持つことが、研究推進の要となった。具体的には、事例の基礎情報から丁寧に検討し、フェイスシート・情報収集シートに事例の情報を書き込み、それぞれの情報をもとに、コミュニケーション、移動、排泄、入浴、食事、着脱、清潔、余暇支援、対人関係（他利用者、家族）、良いケア、悪いケア、好きな職員、嫌いな職員、ベテラン職員、新人職員について撮影シナリオを作成した。使用科目を基軸にした内容を発展させ、事例を点や線で撮影することで、科目を敢えて選定せず、汎用性が高く、利活用のしやすさを重視した。ペーパーシミュレーション事例ではなく、一人の生活者をイメージできる事例動画の作成に至った。特に生活場面の細かいシーンが60種類あることで、分割して使用することや、想定していなかった生活支援技術、介護総合演習、認知症の理解での展開が可能となると考えた。看護師教育においては、教務主任養成講習会ガイドラインが質の向上と準平化を目的に改正されている。一方、介護教員は、「学び直し」と「自己研鑽」の必要性を感じているものの更新研修は存在しない。そのため、本研究の意義は、介護教員の研鑽の場所となり、シラバスや教育に含むべき事項の再確認により、教育力のブラッシュアップの一助になり得たと捉えている。今回撮影した動画の具体的な使用方法は検討途中である。目的であった利用者理解や、科目間連携を促すための学修プログラムに発展させていくことが直近の課題である。

| | |
|----------------|---|
| 疾患名 | 認知症（レビー小体型認知症） |
| 生活歴 | 農家の6人兄弟の5男として生まれ、中学校卒業後地元の製材工場に勤め、20歳の頃自動車製造販売会社へ転職。海外勤務も経験し定年まで務める。同僚の女性と結婚をし1男1女の4人家族で地方都市で暮らしていた。若いころの趣味はバイクや釣りであった。妻ともサイドカーでドライブに行っていた。長男は都市部に就職し、年に数回の面会。長女は結婚後は隣町に住んでおり、キーパーソンは長女である。 |
| 住まい（現在） | 特別養護老人ホーム（ユニット型特養） |
| 家族構成 | 妻と死別後、独居 |
| 参考とするもの | 介護過程テキスト、生活支援技術テキスト、事例集 |
| 介護過程以外の活用のイメージ | 認知症の理解・コミュニケーション・生活支援技術 介護総合演習などの科目に使用可能 |
| コミュニケーション | 日常生活は簡単な意思疎通が可能 幻視があり、不穏な状態になると、職員との意思疎通が困難になることがある 幻視があるときに職員に訴え、対応してもらっている。しかし、日中に「職員には見えておらず、諦めてしまう」と話しており、自分に合わせてくれていることをわかっているのではないと考えられる。 |
| 移動 | 移乗時は廻り立ちが可能、方向転換も声掛けに行うことが可能。 車椅子は職員に押ししてもらっている。 |
| 排泄 | 日中はトイレにて排泄、食事前後や本人の希望時はナースコールがあり介助を行う 夜間はオムツを使用 |
| 入浴 | 入浴時リクライニングができるストレッチャーにてシャワー浴。洗身、洗髪は届く範囲は自分で行う。 |
| 食事 | 主食は全粥、副食は常菜。箸とスプーンを使用し自力で全量摂取 更衣は上衣はゆっくりであれば着脱できる。ベッド柵につかまり立ちして行う。 |
| 着脱 | 持っている服を理解しており、自分で「あれを着る」と選ぶ。 |
| 清潔 | 洗面はタオルを渡すことで自力で保清潔可能 |
| 余暇支援 | 野球観戦 |
| 対人関係（他利用者） | 他入所者のみなさんとおしゃべりしたいと本人より希望がある。 |
| 対人関係（家族） | 本人より頼みごとがあるとすぐに対応しており良好 |
| 良いケア | 錯視による見間違いがないよう、普段から洋服や帽子を壁に掛けないことやカーテンなどをシンプルなものにするなど環境調整を行う |
| 悪いケア | 幻視が見えた際、そんなのいないよと伝える。 |
| 好きな職員 | 男性職員・若い女性職員・物腰が柔らかい職員 |
| 嫌いな職員 | 命令口調の女子職員 |
| ベテラン職員の視点 | 幻視が見えた際、肯定で話を聞く。 |
| 新人職員の視点 | 幻視が見えている際に、内容をしっかり聞き、危害がない説明や、どう怖いかを聞き、明かりを点けたり、場所を変える。 |

結論

介護教育の質を担保するため介護教員の研鑽は欠かせない。意思を同じくしている教員が集まって行う共同研究の意義を再確認できた。

学会発表：第29回日本介護福祉教育学会